市立札幌大通高等学校

多文化交流会議

2016年2月18日

**文部科学省提出用文書**

**２０１５年度　市立札幌大通高等学校　ユネスコスクール実践報告**

#### ２００８年新設の新定時制・単位制の本校では、幅広い分野にわたり約１００科目の講座が開講されており、様々な背景の生徒が学びを共にしている。本校では生徒の「多様性」を強みにするべく、教科横断学習、渡日帰国生徒支援、国際交流活動、生徒会活動等を有機的に繋げた多文化共生教育、すなわち「異なる価値観を持った他者を受容できる生徒」の育成に取り組んでいる。

#### ２０１５年度　大通高校におけるESDへの取り組み

#### 2014年8月～2015年3月

#### アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト

#### complete　このプロジェクトは異文化理解という科目の中で行われた。この年度は、ジャパン・アートマイル・オフィスがタイのPlearnpasa Language Schoolを選んでくれた。お互いのことを知り合うことから始まり、テーマである「人種に対するステレオタイプ、偏見をどう克服するか？」の学習を行った。まとめの段階で、スカイプ会議を行い、お互いどのようなことを感じ合ったかを交流した。そして、最後にテーマについて壁画を制作した。歴史的、文化背景的に対立等のあった国や地域の組み合わせで人物と食べ物を並置することとした。ベトナムの春巻きを食べるアメリカ人、日本のおにぎりを食べる中国人。ステレオタイプからすると問題を抱える国同士かもしれないが、食はお互いに受け入れられるだろう。食を「偏見を超える」ものの象徴とした。

#### ４月

#### JNNE教育ＮＧＯネットワーク　「世界一大きな授業」に参加

「世界一大きな授業」とは、ＪＮＮＥ（教育協力ＮＧＯネットワーク）主催の世界100カ国の子どもたちと一緒に教育について考える世界規模のイベントである。今年度のテーマも「全ての子どもに教育を」である。本校は、例年４月の授業開きに「世界一大きな授業」に参加している。日本や世界の教育の現状について知り、教育の大切さ、自分たちに何ができるかを考えるとともに、教科横断的学習活動によって、体系的な思考力や多面的かつ総合的なものの見方、「つながり」を意識、尊重する力を養うことが目的である。

本校が単位制であることを活かし、生徒が複数の教科で「すべてのこどもに教育を」をテーマにした授業を受けることにより、教科という切り口からテーマに迫り、多角的視点で物事を考えられる様になることをねらいとしている。

理科、数学科、地歴公民科、英語科等、19以上の講座で授業を行い、約１か月で延べ約300名の生徒が参加した。

生徒からは、「学校に行ける、住む場所がある、きれいな水が飲めることすべてに感謝したい。」「文字を読めないこという不便さを改めて知りました。」「みなが日常的に、いろいろな問題について考えていけば、世界は大きく変わるかもしれない。」などの感想が寄せられた。

#### ４月～３月

#### ミツバチプロジェクト

本校校舎5階で養蜂、採蜜をし、蜂蜜を使った商品開発、販売までを行っている。

開発した商品（蜂蜜3種・マカロン・はちみつラッシーJEWEL・トマトジャム・ルバーブジャム）は、9月に札幌大通公園で行われている「オータムフェスト」において商業情報科で販売。最終的な販売会計処理も商業情報科で行った。

今年度行った事業は、「巣箱巣枠制作」を、芸術科と生涯学習センター学社融合講座でのミツバチ関連授業で行い、「飼育・採蜜」を理科とミツバチ関連授業受講者・PTA・生徒ボランティアで、「蜂蜜を用いた商品開発」を家庭科・商業情報科で、「商品パッケージデザイン」を商業情報科・芸術科で、「蜂蜜を使用した調理実習」を家庭科の授業で企画した。

その他、英語科ではミツバチの生態を学び、英訳する授業などもおこなったことがある。また本校校舎には幼稚園も併設されていることから、情報を積極的に出すことで、オータムフェストの販売応援もしてもらった。更にPTA研修部は経専調理製菓専門学校から講師を招いて、本校で採取した蜂蜜を使用したハチミツロールケーキ作り講習会を行った。

今年度のメディアでの紹介は、北海道新聞、雑誌モーリー「生き物たちの場景」などがあった。このような試みは今後も学内外との連携を取りながら、持続可能な事業として展開する。

#### ７月

#### グラント高校生の受け入れ

　平成27年度「札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業」により、男女１名ずつ２名のグラントの高校生を2週間本校に受け入れた。2人は基本的にホームスティ先の生徒と同じ授業を受け、様々な場面で本校生徒と交流した。札幌滞在中、東白石児童会館で、子供たちと日米の遊びを教え合うという交流もあった。

#### ８月

#### １年次国際理解ワークショップ「セカイってナンダ？？」

　大通高校に在籍する海外にルーツを持つ生徒（中国、フィリピン、カンボジア、ウクライナ、ハンガリー、ボリビア、韓国、メキシコ、アメリカ）が、一年次生徒向けに「セカイってナンダ？」をテーマに、クイズ形式で9カ国のことについて出題し、楽しく学べる国際理解のためのワークショップを実施した。

#### 日本人生徒は、渡日帰国生徒から異なる習慣や文化を持った人々の存在を認識し、渡日帰国生徒は自国文化について紹介することにより、自国文化についての理解を深め、自己肯定感を持てるようになった。

#### １０月

#### 青少年交流事業「JENESYS2.0」による中国高校生の訪問

上記の事業のより、中国人高校生28人、引率者4名が10月16日（金）に本校を訪問した。午前中は、歓迎セレモニーの後、中国人高校生が5つのグループに分かれ、校内の見学、及び、授業見学をした。各グループには生徒が付き、英語か（日本人生徒による）中国語（本校の中国人生徒による）でガイドをした。昼食も中国人生徒と本校の生徒が一緒にとった。午後は、交流授業が行われた。これは、本校の生徒と中国人の生徒の特設授業であった。本校の生徒と中国人の生徒が混ざった10のグループに分かれ、グループごとに学習することにした。最初は、漢字に関する授業が行われた。同じ漢字でも、日本語と中国語で意味が同じ場合と違う場合がある。意味が違う場合には、生徒たちは大変驚いていた。授業の後半は、「中国と日本が仲良くするために必要なこと」について、漢字1字で示してみようという課題を出した。それぞれの生徒はB4ほどの紙に漢字を書き、説明した。その説明については、中国語のできる佐藤千恵子先生が、中国語から日本語に、日本語から中国語に通訳した。ほとんどの生徒が、融和的な意味を表す漢字を選び、「お互いが思いやりを持つことが大事だ。」というようなことを述べていた。思いがけず、このような言葉が生徒から出たことは、感動的であった。最後の送別セレモニーでは、本校の書道部による書道パフォーマンスを披露した。中国では行われていないということで、好評であった。別れ際には、生徒たちは握手したり、ハグをしたりして名残惜しそうであった。

#### １１月

#### Circle The World　（札幌国際教育推進委員会主催　ALT交流会）に参加

札幌市のALT（外国語指導助手）が企画するワークショップと、生徒自ら行うワークショップにより、小さな世界旅行（Circle The World）を体験する、というもの。今年度はALT30名と、札幌市立高校７校からの生徒約80名が参加した。本校の中国からの渡日帰国生徒が、生まれ育った町、ハルピンの文化・教育・生活についてプレゼンした。

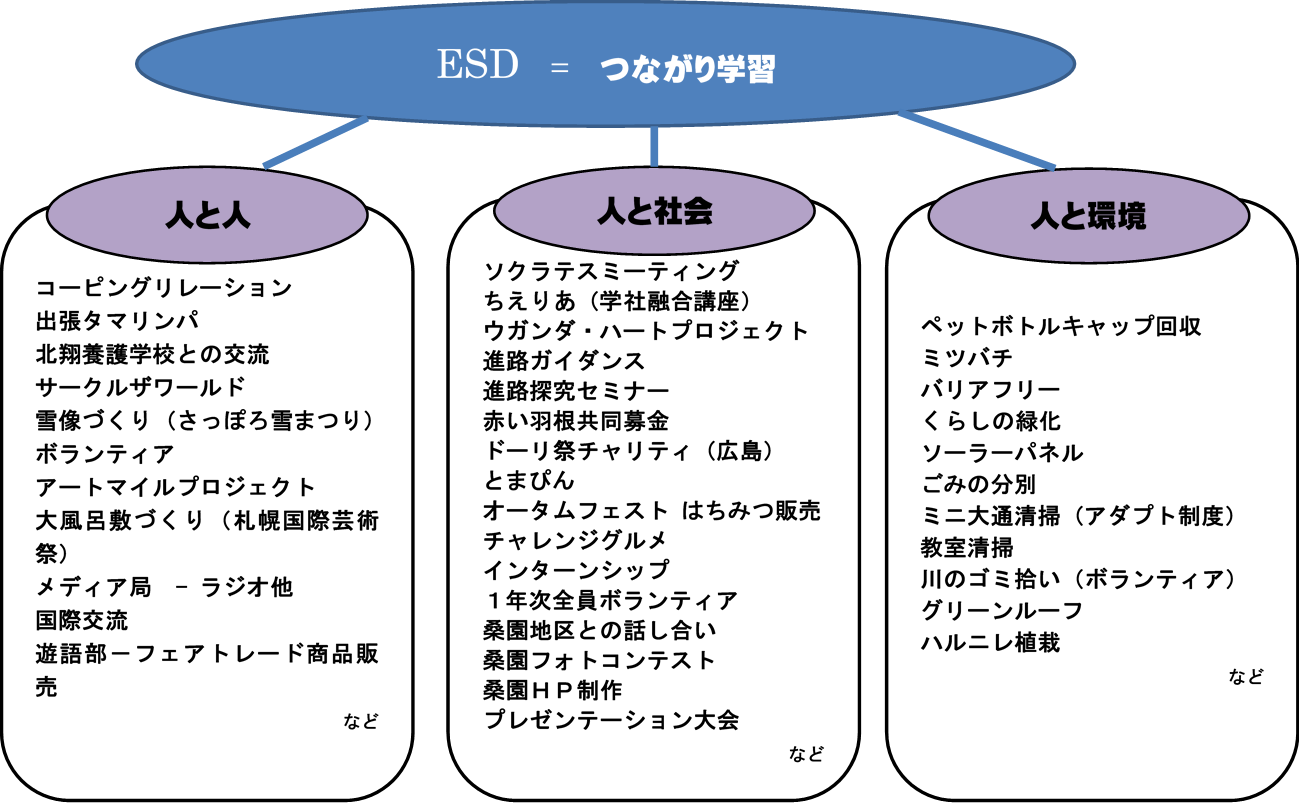
#### C:\Users\00209f20\Desktop\1208\P1010996.JPG１２月

#### １年次「ESD学習」

#### 12月21日（月）、１年次「総合的な学習の時間」で、本校で取り組んでいるESD活動について学び合いを行った。

#### まず教師が本校の日常の活動とESDとの関係を暗示し、次に政府のインターネットテレビの動画を視聴し、ＥＳＤの意味を学習した。次にグループ内で自分たちが取り上げた活動について仕訳を行い「人と人」「人と社会」「人と自然」の３つに分類した。

#### 最後は分類した図を完成させ、互いに発表し合った。



#### ２年次「ESD学習」

#### ２年次「ＥＳＤ学習」は、１年次を発展させたもので、今年度が初めての試みである。１２月７日（月）に行われた。テーマは「札幌の身近なＥＳＤ」である。札幌には、扇状地から生み出される「伏流水」を利用して発展してきた産業があり（味噌、酒、豆腐など）、街の発展を支えてきた。一方で、その発展とともに失われていったものがあることに気付かせ、郷土「札幌のＥＳＤ」について考えた。

#### 前半は、ＥＳＤの概念を復習し、ＮＨＫで放送された「ぶらタモリ『札幌』」（録画）を視聴した。この番組では、本校の近辺に明治時代くらいまで湧水（アイヌ語で「メム」）が湧き出しており、それがなぜ失われたのかを考察しており、この学習にピッタリであった。

#### 後半は、北海道コカコーラボトリング（株）に協力いただいた。２人の担当者が硬水と軟水の違いを、生徒に水の飲み比べをさせながら説明してくださった。その後、札幌工場の「いろはす」という飲料水の作り方を説明してくださった。彼らのポリシーで、くみ上げた地下水はその分地下に戻すようにする。また、水源を汚さないということを徹底しているということであった。これもこの「ＥＳＤ学習」にタイムリーな内容であった。

#### ２月

#### ＮＧＯ韓日社会フォーラムによる韓国高校生の訪問

#### ２月３日（水）に１４人の韓国人学生（７人が大学生、７人が高校生）と引率者１名が本校を訪問した。午前中は歓迎セレモニーが行われ、本校の２名の韓国人生徒が司会を務めた。引率者の方が日本語に堪能なので、来校した韓国人の生徒の通訳をお願いした。生徒会長は韓国語を学習中なので、あいさつを韓国語で行った。その後、本校の生徒の案内で校内の施設見学及び授業を見学した。韓国の学生たちはソウル及びその近郊から来ていたが、みな日本文化に興味津々で、案内の生徒にいろいろ聞いていたようだ。韓国語の話せない生徒は、英語で意思疎通を図っていた。

#### 休憩をはさみ、昼休み中の和太鼓部の活動を見学した。歓迎の演奏を聴いている様子を見ると、初めて見る和太鼓の演奏に圧倒されていたようだ。その後、実際に本校生徒の指導で、和太鼓体験した。

#### 昼食をはさみ、本校の生徒とグランドでレクレーションを行った。グランドには膝くらいまで雪が積もっており、韓国の生徒たちは雪に触れるのがうれしくてしょうがないという様子であった。雪合戦や徒競走を楽しんだ後、本校の体育の先生の指導で雪だるまの制作をした。訪問生徒と引率者の人数と同じ１５体の雪だるまを作った。小さいものからだんだんとサイズを大きくし、最大のものは１メートル５０センチの高さになった。出来上がった雪だるまの首には、訪問者全員の名札をつるした。翌日、各ホームルームで本校生徒に、雪に不慣れな韓国の生徒と本校の生徒が作ったのだと紹介した。